

Cirihot



し び の と

高松市美術館
ボランティア通信
2003年4月1日発行

誌 上 ギ ャ ラ リ ー ト ー ク

鉄腕アトム軌跡展

空想科学からロボット文化へ 1900-200X

2003

4
7
月

5
11
日

場所 高松市美術館

時間 火～金曜日:午前9時30分～午後7時/土・日曜日・祝日:午前9時30分～午後5時
※4月7日(月):午前10時～午後5時(午前10時開演) ※入室はいずれも閉館30分前まで

休館日 月曜日[但し、4月7日(月)はアトム誕生日のため開館]
※5月5日(月・祝)は開館、翌5月6日(火)休館

入場料 一般=600円(480円)/高・大生=400円(320円)/小・中生=200円(160円)
※()内は前売りおよび団体20名様以上の料金 ※65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)は入場無料
※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料 ※土曜日は小・中・高生は入場無料

●主催……………高松市美術館/朝日新聞社/OHK岡山放送/KSB瀬戸内海放送 ●協力……………浜名梱包輸送株式会社/手塚プロダクション/parastyle

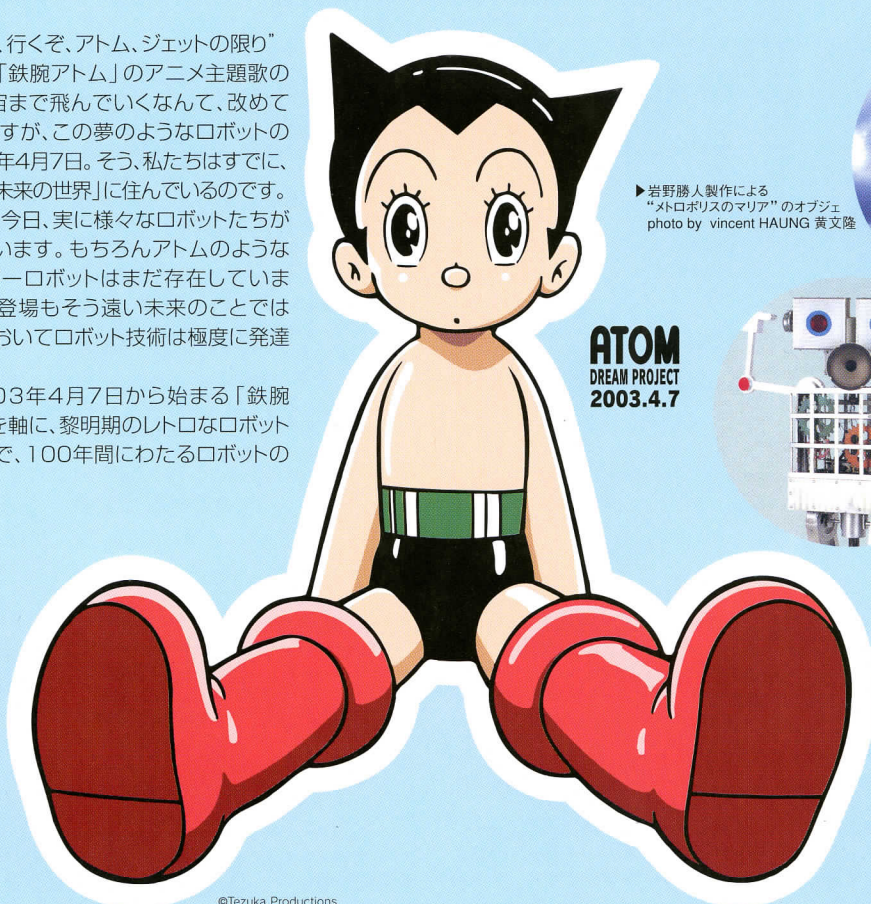
“空を越えてラララ星の彼方、行くぞ、アトム、ジェットの限り”
ご存知、手塚治虫の名作SF「鉄腕アトム」のアニメ主題歌の冒頭です。ジェット 口噴射で宇宙まで飛んでいくな、改めて考えるとすごいロボットですが、この夢のようなロボットの原作上の誕生日はなんと2003年4月7日。そう、私たちはすでに、手塚氏が50年前に思い描いた「未来の世界」に住んでいるのです。

産業用、警備用、愛玩用など、今日、実に様々なロボットたちが人間の暮らしのために働いています。もちろんアトムのような知性とパワーを備えたスーパーロボットはまだ存在していませんが、そのようなロボットの登場もそう遠い未来のことではないと思わせるくらい、現代においてロボット技術は極度に発達しているといえます。

アトムの誕生日である2003年4月7日から始まる「鉄腕アトムの軌跡展」では、アトムを軸に、黎明期のレトロなロボットから現代のハイテクロボットまで、100年間にわたるロボットの歴史が紹介されます。

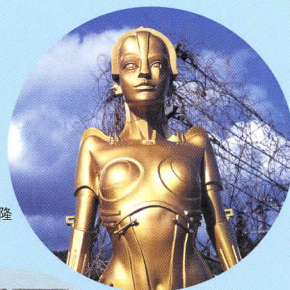


▲「アトム大使」第4話表紙

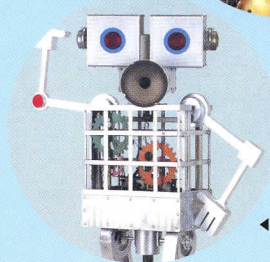


©Tezuka Productions

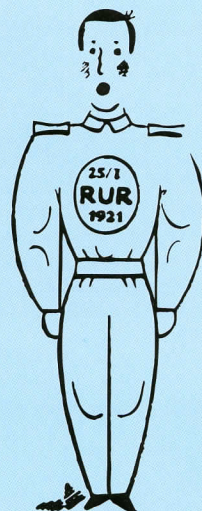
▶岩野勝人製作による
“メトロポリスのマリア”のオブジェ
photo by vincent HAUNG 黄文隆



ATOM
DREAM PROJECT
2003.4.7



◀大阪万博
フジパンロボット館
トークロボット



▲「R.U.R.」の作者カレルの
兄ヨゼフによるロボットのイラスト

ロボットのような「人間に似たものの存在」は、古くはギリシャ神話の「ピグマリオン」に始まり、19世紀に作られた「フランケンシュタイン」や「ピノキオ」の物語など、フィクションの世界において繰り返し構想されてきましたが、「ロボット」という言葉が最初に使われたのは20世紀にはいつからのことでした。ここでは、「ロボット」という言葉を生み出した戯曲『R.U.R. (エル・ウー・エル)』について少しお話しします。『R.U.R.』はチェコの作家カレル・チャペックが1920年に発表した戯曲。人間に代わって労働に従事させられるロボットたちが反乱を起こし、老人一人を残して人間を抹殺するが、子孫を残すことのできない彼らは苦悩し、やがて感情が芽生えていく…というのがそのあらすじです。文明社会への警鐘というSFの定番テーマがすでに用いられているというのも興味深いですが、とりわけ面白いのは登場するロボットの身体。ロボットというと、ハリボテのような鋼鉄の身体のイメージがありますが、チャペックが採用したのは血も内臓もある人間とそっくりなバイオ・ロボットなのです。演劇のためにはそのほうが都合がよかったのかもしれませんが、いずれにせよ『R.U.R.』は、クローン人間が生まれようとしている今日にあっては、単なる絵空事ではない、リアルな物語としてとらえることも可能なかもしれません。

[石床亜希・牧野裕二]

突撃 アートの晩ごはん

4

今回のメニューは、アツ〜と驚くアートの晩ごはん。
アーティスト・間島領二さんの《ヌードル・ボーイ》、
《ヌードル・ガール》です。

巨大なラーメンどんぶりの中に
どっぷり浸かって、食い入るように
テレビを見ながらラーメンを食べる
全裸の男女。

これは間島さんが1995年に
制作した《ヌードル・ボーイ》、《ヌー
ドル・ガール》という作品です。間島
さんは食をテーマにした作品を数
多く制作していますが、その動機を
次のように語っています。

「人間が食べて生きていくという
ことがごく日常的になってしまっ
て、そこにアーティスト的な
ものが見出されていなかった
のね。特に美術の世界
では画期的にない。
例えば、もう一つの欲
である性欲や、時間的な
ものを追及する夢も含
めての睡眠欲は、すでに
美術の世界では殆どを
占めている。性欲はな
くても生きていける。うん
と僕くらいになると感じ
なくなるという恐ろしい
状況になってしまう
しまうけど(笑)。でも、
食欲だけは
あるんだよね。つまり、
そこには何か
本質的なものがあるだ
ろうと。
そして誰もやっていな
いし、じゃあ、
やつてみようじゃない
かと。」(ホーム
ページ「リキテックス
ワールドへ
ようこそ」「アティス
トの声」より
引用)彼の作品は、一
見明るく見えます
ますが「実際、明るく
楽しい要素も
多分にありますが、そ
こには現代
社会に対する痛烈な
批判が込められて
います。食欲やあら
ゆる欲望の

ぬるま湯に胸までどっぷり浸かっ
ているその姿は典型的な現代人が置
かれている光景なのかもしれません。
また、これらの作品は現代における
受動的な食のあり方への風刺を表し
ているようにも思われます。どんぶり
の中の男女は誰によって食べさせら
れているのでしょうか？自分で箸を持
てないのが不思議ですね。
ところで、個人的に「どんぶりジ
ョン」も見てみたいと思うのはやは
り讃岐人の性(さが)でしょうか！

【鈴木典子】

間島領二《ヌードル・ボーイ》
(1995) 樹脂、粘土、アクリル、
ビデオ内蔵テレビ 160×110cm

間島領二《ヌードル・ガール》(1995) 樹脂、
粘土、アクリル、ビデオ内蔵テレビ 160×112cm



1 アンジェ美術館展 知られざる西アフリカの美術展ギャラリートークを終えて



トークを始めて丸3年、「アンジェ美術館
展」では、サロン中心のアカデミックな
絵画と真っ向から向き合うこととなり
ました。神話・宗教画・古代ギリシアを
偲ばせるような彫刻、そして優美なロココ
絵画。今まで「ロココ」を「傲慢な貴族

たちの煌びやかな
美術」と否定的な
目で見ている私
には、そこはか
となく哀感漂う「雅
宴画・ワトー」の
出会いには鮮烈
でした。「悲しき
ピエロ」、このイ
メージを最初に
作り上げたのが
ワトーだと知り、
気難し屋ワトー
の優しい眼差し、
早世した彼の
人生をしみじ
みと思い遣り
ました。また、
シャルダン
ほか数人の画
家によるよく
似た静物画、
ところが本物
を観ると違い
歴然、「あなた
の絵にはまだ
で微風が流
れているよう
だ」とシャル
ダンを絶賛し
た批評家の
言葉が実感
でき、彼の
描く「もの」
の

存在感に圧倒されました。歴史画では
複数の画家が同じテーマを取り上げて
いることも多く、パズルを解くように
共通項を探す作業はなかなか楽しい時
間でもありました。知られていない画
家が多いことから、トークの内容は画
家の背景や物語に焦点を当てるよう
に努めました。

年が明けると、今度はガラッと変わ
って「知られざる西アフリカ美術展」。

「どうして博物館でしないのだろう？」
と思った私、まずこの考えこそが、最
初の誤りであることに気が付きました。
「プリミティブ」を「原始的な、単純
素朴な」と考えていたのですが、単純
どころか非常に複雑で知的な美術と
出会い、そもそも生活する大地のスケ
ールが余りにも違うのだと、価値観
の違いに愕然としました。来館者の中
に何と、「アフリカ旅行から帰ったば
かり。展示の物と同じバクバ族の布
を買って来

主な活動

2002年

- 10・1 しびのーと6号発行
- 11・1～12・8 ■「アンジェ美術館展」ギャラリートーク
- 11・16 ■京都へ鑑賞旅行

2003年

- 2・1 ■ボランティア養成講座受講生と初顔合わせ
- 2・21～3・23 ■「知られざる西アフリカ美術展」ギャラリートーク

した。」と言う方がおられ、まだ時差
抜けないうちに早速足を運んで下さ
ったのがあり、逆にこちらが生のア
フリカの姿をトークして頂きたいと
思いました。ギャラリートークの度
に感じるのですが、緊張の時間の
あと、来館者からの一言にとど
められます。聴いて下さる方あ
っての私たち、気持ちの通う
トークをしたいと
思います。
【池田幸子】

2 鑑賞旅行 京都編 [11・16]

高松からのバスは、京都に入ってから
渋滞に巻き込まれ約30分遅れて京都
駅に到着。展示会は午前中が空いて
いるという情報から、そろそろお腹の
虫が騒ぎ出す時間でしたが、そこはぐ
っとがまんして先ず「メトロポリタン
美術館展」(京都市美術館)へと直
行しました。今では京都の町を我庭
のように慣れ親しんでいる元civiメン
バー能勢さんの後に続いて、ひらり
ひらりと牛若丸らしく無駄のない
動きで、おそらく最短距離で、美術
館に到着。私たちは待つことなく、
スルリと入場できましたが、その
少し後からはどっと押し寄せた入
場者でたちまち長い列が出来ていま
したから何ともラッキーでした。

「メトロポリタン美術館展」は「ピ
カソとエコール・ド・パリ」の副題
のとおり、近代のフランス絵画を中
心とした充実した展示内容。ピカ
ソの作品が9点もあってピカソの
画風の変遷を一望する事が出来、
ピカソはやっぱりすごい!と感動。
また、モーリス・ドニの「春」の、
柔らかな色使いが印象に残りまし
た。

京都市美術館を出ると地下鉄に乗
って、楽しまな昼食の場所へと移
動。「半兵衛」という短い暖簾の
かかった小さい入り口を入ると意
外に奥は広く落ち着いた椅子席で、
目もお腹も京都らしさを堪能出来
ました。続いては、「大レムブラント
展」(京都国立博物館)へ。高松市
美では平成12年に「レムブラント
版

画展」が開催され、私たちがギャ
ラリートークを行ないましたが、油
絵と向かい合うのは初めてなので
楽しみにしていました。さすがレ
ムブラントの肖像画、まるで髪
の一本、しわの一本まで今にも動
き出しそうで、そのリアルな描写
には驚かされました。エコー
ル・ド・パリの画家達とレムブラ
ント、味わいの違う二つの美術
展、



「京都市美術館の前にて」

京料理とともに充分な満腹感を感じ
ながら家路につくことが出来ました。

【石原ミエ子】

3 新しい仲間を迎えて [2・1]

活動開始から3年半、civiに新たな
仲間が加わりました。昨年末から年
明けにかけて、活動の更なる充実
のため新メンバー募集を実施し、
ボランティア養

成講座受講生として来ていただく
ことになった10名のみなさんです。
2月1日は養成講座の第1回目で、
現メンバーとの初顔合わせ。お互
い初対面にもかか

わらず、緊張もなく(私にはそう見
えました!)和やかな雰囲気の中、
自己紹介などを行ないました。新
メンバーは6月までの養成期間終
了後、7月の「ヘンリー・ムーア

展」からギャラリートーク等の活
動を始める予定です。更なるパワ
ーアップを図るciviの活動に請
うご期待!

【高松市美術館学芸員 牧野裕二】

飯田善國《十面体》

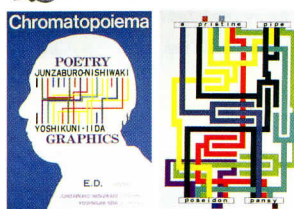
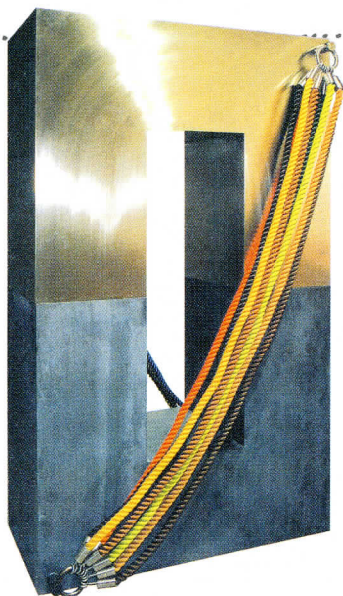
1981年/鉛・ステンレス・着色ナイロップ／
50×120×200cm 高松市美術館蔵

この作品は館内に常設展示されている立体作品の一つだが、どこにあったかな? そう、エントランスホールの東壁面に寄り添うように置かれ、二見目立たない。だがよく見るとユニークである。なぜ? 金属と色ロープの組み合わせはめずらしい。こんな疑問から飯田善國の世界をのぞいてみた。彼の制作活動には4つの転機があった。それは、①ルネサンスの巨匠、ミケランジェロへの傾倒、②現代彫刻家、ヘンリー・ムーアへの共感、③ポップアーティスト、リキテンシュタインの衝撃、④詩人、西脇順三郎との共同制作である。これら一つひとつの出会いが、抽象彫刻家、飯田善國の作品世界を形成しているのである。

《十面体》は「色ロープ」が鑑賞者の目を引くが、これは「何を表わしているのだろうか?」そのヒントは、先に述べた④の経験にある。飯田は《色彩詩 Chromatopoiema》という作品において、西脇の詩に絵をつける作業を行なったが、その際、

26あるアルファベットを26の色彩に置き換えて、その色彩の帯によって詩の語句どうしを結んで見せた。《十面体》はこの作業を立体化して見せたものなのである。作品は上半分のSTAINLESS STEEL(ステンレス・スチール)と、下半分のLEAD(鉛)という二つの異なる物質からなるが、両者のスベルの中にはE、L、Aという共通したアルファベットが含まれており、それらが色ロープによって表わされているのである。これらは、言葉を用いた遊びにも思えるが、作者によると、遊びの要素もあるがそれに終始するものでもないらしい。つまり、彼が行なっている異質なモノとモノとの間に横たわる関係性へのこだわりは、万物は見えない糸で結ばれている、という飯田の独特な世界認識から導き出されたものなのだそう。飯田の説明は難解で、正しく理解しようとする頭がクラクラしてくるが、作品を前に、遠ざかったり、近づいたりして見てみよう。様々な幻想の世界が広がり、愛着のもてる作品である。

[谷口淳子・牧野裕二]



《色彩詩 Chromatopoiema(クロマトポイエマ)》
1972年 高松市美術館蔵

プロジェクトM

鑑賞って、なあーに?

美術館で鑑賞教育の必要性が叫ばれてから久しいです。で、遅ればせながら、高松市美術館でも昨年から《アートで遊ぼう! (作品を「じっくり見る」ための鑑賞プログラム)》とネーミングした鑑賞教育に取り組みはじめました。全6回、そのつど15名の小学3〜6年生を募集しました。

で、どんな行事をするにも広報宣伝です。募集のチラシには、このような質問を並べてみました。

● あなたは、ひとつの作品を前に、どれだけ時間をかけて見ますか?

ちらっとみただけ	▶ 至急、参加が必要です!!
1分間	▶ ぜひぜひ参加すべきです!
カップラーメンが食べられる時間ほど(3分間)	▶ 参加した方がいいかもね。
小学校の休み時間(10分間)	▶ それって、ホントのはなし...?
それ以上	▶ あなたのその見かたを教えに来てください!

みなさんの答えて、どれでした? 大人の方々にも聞いてみたいですね。よく展覧会場で、作品は一瞥、でもキャプションや作品解説を前にうなずいている人を見かけますよね。「やっぱりピカソやなあ。これってマチスやったん。ふむふむ〜」って。かくいう私も近いことをやっているときがあります。でも、これって鑑賞なの?! 権威や知識を確認する作業に過ぎませんよね。もちろん、子どもたちにも先入観はあります。でも大人ほど、既存の価値に寄りかかれな分、彼らは有名無名にあまり引張られることなく作品に関われるようです。

《アートで遊ぼう!》では、何れともあれじっくり作品を見るための訓練を繰り返します。泳げるようになるためには、まず水に顔つげが必要のように、作品を怖がらない訓練です。たとえば「ゲームでアートを楽しもう!」の回では、マッチング(絵合せゲーム)にチャレンジし、知らず知らずのうちに図像解きを楽しみました。(マッチングの詳しいやり方は、シヴィノート2号の池田幸子ボラ

ンティアによる記事を読んでね。) 好き嫌いではなく、自分なりに作品と交信してみたいですね。方法はいろいろあります。彫刻作品のポーズを真似てみたり、絵の中に物語を作ってみたり、同じテーマ(たとえば食卓画)ばかりを比べてみて...とかね。美学的・美術史的な価値を身にまともなくとも、自分自身の目で作品を楽しむことができるようになりたい、っていうのは、ほんとうは



私自身の願望かもしれません。

さて、これまでにたくさんの児童生徒たちが、学校の先生に引率されて展覧会を見に来てくれました。その度、私たち学芸員は彼らを美術館の裏側探検に連れ立ったり、数点の作品と一緒に見て話し合ったりする機会を持ちます。そうしたやり取りはとても楽しく刺激的なのですが、そのプログラムが客観的に批評されてこなかったことに、いつも不安が残りました。個人として児童生徒とのプログラムの経験は増えていくのだけど、美術館のシステムとしては蓄積されていないのでは、という焦りですかね。

実は、「学校と美術館との連携」が声高にいわれ始めてからも長いわけですが、ついに高松市美術館でも具体的に始まったのです。「学校と美術館との連携」の会が。それは2月22日のことです。小・中学校の先生方を開催中の「西アフリカの美術展」に招待し、山本学芸員による小学5年生向けの模擬ギャラリートークを体験してもらいました。その後、意見交換

会を持ち、教育現場からの的確なアドバイス、実直なリクエストをいただくことができました。(忙しい中、参加くださった17名の県下の先生、どうもありがとう!! です。)

で、私の感想ですが、学校の先生って、子どもの視点に立って発言されるのです。ホントですよ。そんなこと当たり前だっておっしゃる方もいるでしょうけれど、美術を介しての教育を考えておられるそれぞれの先生の熱意ってものが私たちにも伝わってきました。先生を交えての勉強会は、ぜひぜひ定期的に続けていきたいって、強く思った次第です。この火は消さない、って誓ったわけです。

もう一つ、宣伝です。会に参加くださった中に、滝澤俊っていうハンドルネームで美術のホームページを開いている先生がいました。ぜひ、アクセスしてみてください。驚きです、感動でした。そして楽しめす。http://www.venus.dti.ne.jp/~orthias/artindex.htm (美術関連検索サイト)

[高松市美術館学芸員 毛利直子]

civiと一緒に美術館を探索してみませんか？今回は、普段私たちが覗くことのできない舞台裏、作品の保管と修復についてご紹介しましょう。

高松市美術館では、①戦後日本の現代美術、②20世紀以降の世界の美術（版画）、③香川の美術（漆芸、金工）と三つの収集方針に基づいて収集をしていますが、人間にも汗をかき暑がり寒がりがあるように、美術品もその材質によって適する環境に大きな差があり、収蔵品はそれぞれジャンルによって分けられ保管収蔵されています。温度は原則として20℃程度ですが、乾燥を嫌う漆芸品は湿度60～65%、逆に湿気を嫌う版画作品は湿度50～55%、その間をいく日本の現代美術は湿度55～60%に設定されています。空調設備は地下の中央監視室で制御され、毎日点検を欠かさず、天候も考慮して調節しているそうです。また、停電に備えて、自家発電の設備も整っています。展示室では、その時々に応じて、除湿機や加湿器が設置されていますが、

▲デジタル表示の照度計と温湿度計
 ▲温湿度計 湿度は内部にある人間の毛髪の伸び縮みにより測定されます。毛髪は外からも見えるので、展示室で見かけただ一度ご覧を

▲収蔵庫 平面作品の収蔵光景

修復後

それもその日の天候によつてまめにチェックされています。実は、梅雨時には版画作品は展示されてはいないことに、皆さんはお気づきでしたか？湿度が高いと、版画が波打ってしまうそうです。

また、紫外線は作品を傷めるので、ライトは美術館・博物館専用の紫外線カットの蛍光灯が使われています。照度についても細かく設定され、展示されるときは作品ごとに照度計で

修復前

作品のひび割れが修復されているのが分かるかな



確認の上、ライトの位置や強さを調節しています。特別展の場合、展示環境は貸し出し側の指示に従いますが、大体油絵で2000～3000ルクス、紙や絹本の作品は1000～1500ルクス、特に光に弱い版画は1000ルクス程度だそうです。どうも暗いな、と思われたことがあるかも知れませんが、漆芸品はさらに暗く80ルクス以下、それでも常設展示室2の部屋は、来館者があるときだけ監視員の方が少し明るく操作してくれているそうです。

さて、こんなにも手厚く保護されている美術品ですが、にもかかわらず、病気や怪我をすることがあり、そんなときはやはり治療が必要になります。しみやカビ、紙が浮いたり、木が反ったり、また絵の具の剥離や亀裂、彫刻や漆芸品の破損などなど……ここで登場するのが修復作業です。保護だけのおつかない場合の最終手段として、いわば外科手術をするわけですが、高松市美術館でも毎年数点ずつ、必要度の高いものから、専門家に依頼して、作品を修復しています。皆さん、昨年話題になった『冷静と情熱のあいだ』という映画をご覧になりましたか？主人公の竹野内豊扮する修復士が顕微鏡を覗きながら17世紀のアカデミックな油絵を修復していましたよね。あの映画では、『フリンツェの街全体が世界中心の修復の工房である』と謳っていましたが、日本ではまだまだ、修復士の数は少ないそうです。

ところで、修復といえは、今年の2月、『つばしりし作品「農婦」が実は本物だと判り、1万円の値が6600万円に跳ね上がったと大騒ぎになりましたが、そこでも『ゴッホの死後、加筆修復された』と報道されていました。さて、ゴッホの絵を修復した人の意図は分かりませんが、真相はいかに？……ですね。そんな探索もしてみたいものです。

【池田幸子】

美術館 2003年度のラインナップ

【特別展】

- 鉄腕アトム軌跡展 ー空想科学からロボット文化へ1900-200X
4.7(月)～5.11(日)
- ベスト・コレクション展 人間のイメージ
6.6(金)～6.22(日)
- ヘンリー・ムーア展
7.25(金)～8.31(日)
- モーリス・ドニ展
9.12(金)～10.19(日)
- 船越桂展
10.31(金)～12.7(日)
- 開館15周年記念 玉緒象谷展
2.27(金)～3.28(日)

【常設展】

現代美術と工芸

- 第1期 4.7(月)～6.1(日)
- 第2期 6.6(金)～8.3(日)
- 第3期 8.9(土)～10.19(日)
- 第4期 10.25(土)～1.12(月・祝)
- 第5期 1.17(土)～3.28(日)



▲奈良美智「Milky Lake」2001年
photo:Yoshitaka Uchida、ノマディック工房

▲舟越桂「暎い振り子」1992年
東京都現代美術館蔵（撮影＝早川安一）

【アートで遊ぼう！(作品を「じっくり見る」ための鑑賞プログラム)】

- 対象 小学3～6年生
- 定員 各15名(前・後期ともに申込制・先着順)
- 時間 午前10時～11時30分
- 開催日・内容 前期3回通し

5・10(土)	「アニメーションをつくろう！」(仮称)
6・14(土)	「ミニ美術館をつくろう！」(仮称)
7・26(土)	「何に見えるかな？」(仮称)

後期3回通し

10・4(土)	「100年前にドニさんが考えたことって？」(仮称)
11・15(土)	「物語をつくろう！」(仮称)
2・28(土)	「きみも象谷さんになろう！」(仮称)

*参加費無料、日時・内容は変更する場合ありその他、冬休みにワークショップを開催予定

お問い合わせ

- ◆ボランティア通信「しびのーと」、シヴィのギャラリートークに関するご意見・ご感想
 - ◆本紙記事「知った？美術館」で取り上げてほしいもの
 - ◆美術に関する素朴な疑問……etc.
- などがありましたら、郵送・ファックス・美術館内のアンケート等でお知らせください。シヴィの活動および、しびのーとの紙面作りの貴重な参考にさせていただきます。

高松市美術館 ボランティア係
 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL087-823-1711 FAX087-851-7250
 高松市美術館ホームページ <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/bijyutu/index.html>
 展覧会やワークショップの案内など、最新の情報を満載！いちど、のぞいてみてください！

利用案内

【開館時間】

火～金：9時30分～19時
 土・日・祝日：9時30分～17時
 (展示室の入室はいずれも開館30分前まで)

【休館日】

月曜日(ただし、休日と重なる場合はその翌日)
 年末年始(12月29日～1月3日)

私達と鑑賞を一緒にしませんか？

美術館ボランティア「civi(シヴィ)」による
 ギャラリートークは特別
 展会期中の毎日曜日お
 よび祝日の午前11時～
 午後2時～1日2回、2階
 展示室にて行います。

作品や作家などの知られざるエピソードが聞けるかも？

編・集・後・記

- GTの準備に追われ、原稿の締め切り)に追われ、アフリカと日本の流れる時間の差にため息。科学的近代化は人間の進歩だと錯覚している文明人(?)の悲しさを思いました。悠々と流れる「SHAKA ZULU by LADYSMITH BLACK MAMBAZO」ぜひ、聴いてみてください。 [池田幸子]
- 今回の紙上GTのアトム展、アトムを思い出す上でそれを見ていた頃の幼い自分を思い出すとともに、今の自分を振り返ってみようという思いに駆られました。不思議な思いです。 [石原ミエ子]
- 時どき、ミーティングの際などに小さな赤ん坊を連れて参加してくれるciviのメンバーがいます。にっこり笑ったりときには転んで泣いたり、何をしても愛くるしいのです。お母さんは、子育てでciviの活動と、大変でしょうが赤ん坊との出会いはなんともしえず心温まるひとときです。 [石原ミエ子]
- アツと驚くような現代アートも、時の流れとともに古典になっていく。あたりまえだけど、なんとも不思議な感じ。 [鈴木典子]
- 「現代アートは苦手！」の思い込みの壁を一つ取り払った後の快さ。アートに関する小さな疑問にも当館図書室は宝庫。 [谷口淳子]
- 果たして、2003年4月7日生まれの子どもに、アトム(重都夢、阿斗霧?)といった名前をつける親は現れるのでしょうか？妹が生まれたらウランちゃん? [高松市美術館学芸員 牧野裕二]
- 3月2日(日)、美術館のエントランスホールでヤザキケシさん(さぬき市志度出身)のダンス公演があった。最近では特にフランスなど海外から招待が続く、コンテンポラリーダンス界の注目のダンサーが、「ONE WAY」という新作を引っ掛けて登場。観客のイマジネーションを幾重にもかきたる舞台に、美術の可能性を重ねあわせた。プラー! [高松市美術館学芸員 毛利直子]

発行：高松市美術館
 編集：civi デザイン：Y&Kデザイン 坂田京子